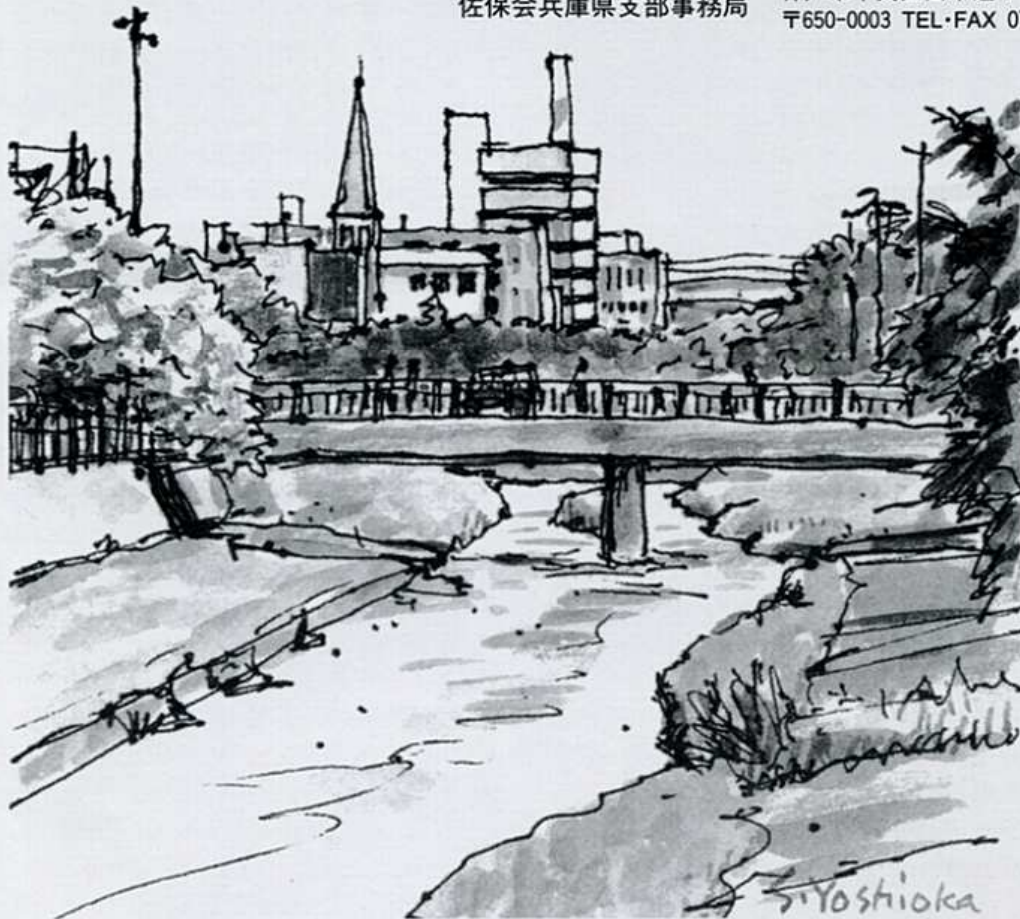


佐保会兵庫県支部だより

第 23 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市中央区山本通り 4-2-9
〒650-0003 TEL・FAX 078-221-3361



芦屋川風景

業平橋のあたり

(芦屋十景の絵はがきより)

「母校創立九十周年」の年に

支部長 浅野晶子 (S23家)

私共の母校は明治四十一年、奈良女子高等師範学校として創設され、翌四十二年五月から授業が開始されました。昭和二十四年、学制の改革によって奈良女子大学に改組され、今日に至っておりますが、今年は何度九十周年という節目の年に当たります。

折しも一昨年、国立大学では初の女性学長が卒業生の中から生まれました。大学では新学長丹羽雅子先生を中心に、この機会に教育研究のさらなる充実、発展を期すと共に、国際交流基金の創設を柱とした記念事業が計画されました。

これをバックアップするために、佐保会の長谷川理事長を会長に記念事業募金会が発足しまして、皆様にも全面的なご協力をお願いいたしました。幸い目標の四分の三位の所までいっておりますが、募金期間は平成十二年四月までですので、一層の裾野の拡がりを期待しております。

さて、佐保会の結束の固さ、パワーについてはつとに評価の高い所ですが、この絆を強めているのが、特色ある寮生活であったと思います。時代によって世情も違い、心豊かに過せた、いわゆる古き良き時代、戦中戦後の厳しく苦しい時代、戦後の自由謳歌時代、夫々の想い出も当然違はずですが、同じ釜の飯を食べた仲間というのでしょうか、世代を越えた親近感は不思議な程で、年を経る程懐かしさが増してきます。

私は二年生から二寮の三舎で過しましたが先輩のお骨折りでここ三年程毎年集まりがあります。五寮一舎など昭和五十九年から隔年に催されているようですが、皆様の所は如何ですか。同じ学び舎で学び、同じ寮で暮らした青春の日々はかけがえのない縁をつくりました。大切にしたいものです。

佐保のつどい



平成11年度 佐保会兵庫県支部総会 平成11年5月23日(日)

ゴールデンウィークも過ぎて落ち着きをとれどした5月23日曜日に、平成11年度佐保会兵庫県支部総会が、神戸ポートピアホテル和楽の間で開催されて、会員70数名が参加いたしました。今年度から新入会員を招待することになりましたが、参加者が無かったことはとても残念でした。会は別記のプログラムにしたがって進み、記念品贈呈に続き奈良女子大学文学部山辺規子助教授の「中世イタリアの結婚」という私たち女性に、とても興味深いお話を伺いました。この後、おいしい和風会席をいただきながら楽しく歓談し、各部の報告を聞きました。最後に全員で校歌を歌い学生時代を思いうかべながら素晴らしい1日が終わりました。

なお浅野晶子支部長の藍綬褒章受賞を全員でお祝い申し上げました。また今年度予算で新入会員の招待費と最寄り会補助費が1人100円ずつ計上されたことを報告いたします。

プログラム

～物故者に対し、黙祷～

1. 開会のことば
2. 支部長挨拶
3. 新入会員紹介-自己紹介-
4. 議長選出
5. 議事
 - ① 新役員承認及び紹介
 - ② 平成10年度事業報告
 - ③ 平成10年度会計報告
 - ④ 平成10年度会計監査報告
 - ⑤ 平成11年度事業計画
 - ⑥ 平成11年度会計予算
 - ⑦ 奈良女子大学創立90周年記念事業募金について
 - ⑧ その他
6. 記念品贈呈
 - ① 卒寿のお祝い
 - ② 卒業後55年のお祝い
7. 講演「中世イタリアの結婚」
山辺規子氏
8. 会食
9. 各部報告
 - ① 本部報告
 - ② 佐保短大報告
 - ③ 大学婦人協会報告
 - ④ 佐保婦人学級報告
 - ⑤ 「若草」報告
 - ⑥ 「睦会」報告
 - ⑦ 第23号「支部だより」
編集委員紹介～芦屋地区
10. 閉会のことば

哀 悼

木村 信子	S13 家	H10	5	14	没
佐藤みさほ	T15 文	H10	9	4	没
増田 勲	客 員	H10	12	22	没
木戸 寿子	S32文国	H10	12	23	没
郷 美美枝	S 8 理	H11	2	17	没
土田 清子	T15臨国	H11	3	19	没
岩田 敦子	S16A家	H11	4	13	没

平成12年度支部総会(予定)

- ・ 平成12年5月28日(日)
- ・ 神戸ポートピアホテル
和楽の間

お慶び

藍綬褒章受賞

浅野 晶子様 (S23 家)

卒寿のお慶び

兼田 孝代様 (S5 文)

平出 美子様 (S4 臨地)

村上恵美子様 (S5 理)

長坂 秀子様 (S3 保)

平成11年度 新入会員 (地区順)

学 部	氏 名	住 所	就 職 先
1 生人文	前田 優子	北 区	
2 文人ス	堀 満子	須 磨 区	
3 文言ヨ	堀 裕子	須 磨 区	
4 生生ア	坂木由起子	垂 水 区	(株) 三 和 銀 行
5 生人シ	松下 裕美	垂 水 区	
6 文人ス	山内 真実	垂 水 区	兵 庫 県 庁
7 生生食	吉井映美子	垂 水 区	新日鉄情報通信システム(株)
8 理 数	楠見 朋子	西 区	NECテレコムシステム
9 生人シ	橋本めぐみ	明 石 市	シャープBCS(株)
10 理 数	西村 香里	加古川市	モトローラ(株)
11 理 数	辰住 繁子	加 古 郡	高菱エンジニアリング(株)
12 生生食	戸村 和江	加 古 郡	神 戸 学 院 大
13 生人シ	井上 綾子	姫 路 市	ウッドランド(株)
14 生人文	永石 典子	飾 磨 郡	
大学院			
15 文修社	武田 祐佳	東 灘 区	
16 家修住	鳴川みどり	灘 区	(株)瀬戸本淳建築研究室
17 家修生	大田 江麻	川 西 市	県立猪名川高校

— 講 演 —

「中世イタリアの結婚」

奈良女子大学文学部助教授

山辺規子氏



京都大学大学院文学研究科修了

著書『ノルマン騎士の地中海興亡史』

講師は、母校文学部国際社会文化学科で比較歴史社会学を教えていらっしゃる、お若い先生です。ご専門の中世イタリア史と女性に関心を持つ結婚とを結びつけた演題で、期待がわきました。

お話は、ジュンブライド(六月の花嫁)の真の意味に始まり、公証人が間に入る結婚契約・結婚時の財産贈与は(時代や地域により贈る側が夫あるいは妻と異なるが)結婚の基本であること等々。レジメをもとに西欧絵画や「ロミオとジュリエット」を引用され、わかりやすいものでした。時に現代女子大生気質にもユーモラスにふれられました。教科書に書かれた表向きの歴史と、資料からうかがえる実態の対比については特に心に残りました。

現代の結婚観を思いつつ興味深くきき、久しぶりに学生気分浸ったひとときでした。

山崎渺美 (S39 文教)

若草だより



若草の活動報告と予定

平成11年4月20日(火)	若草だより発行
5月23日(日)	第7回若草定例会
10月24日(日)	第3回佐保会若草コンサート
11月10日(水)	フラワーアレンジング
平成12年1月22日(土)	若草新年会

平成11年度若草運営委員

(芦屋)	山崎 滂美 (0797-32-5218)
	福井千佳子 (0797-22-5626)
	岡本 郁子 (0797-31-6860)
(西宮)	芝池 禮子 (0798-67-7913)
	安井 孝子 (0798-52-8082)
	安達由利子 (0798-23-5286)

「洋菓子作り」と「酒蔵めぐり」

10月16日、西宮市用海公民館で、安達由利子様のご指導で洋菓子作りの会がありました。当日は、大雨警報が出るというあいにくのお天気でしたが、皆様とご一緒に楽しく実習、試食をさせていただきました。安達様は、他のお料理教室の講師の経験もありとかで、てきぱきと指導して下さいました。

また役員の方々の準備もよく、たった2時間ほどの間に、レモンの香りのバターケーキ、パンナコッタ、そぼろちらし寿司、澄まし汁と四品もできました。電動泡立て器で泡立てると、どうしてもきめが粗くなるので、最後に手動でもう一度泡立てる、パウンド型に生地を流し入れる時、クッキングシートを使わずバターを塗って粉引きして焼くなど、私の知らなかったお菓子作りの“こつ”も教えていただきました。また機会がありましたら、他にもいろいろ教えていただきたいと思えます。

午後は、「白鹿記念酒造博物館」を見学しました。この辺りは、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたところですが、趣のある街並みが「酒蔵通り」として再建されており、小雨の中の落ち着いた散策となりました。

(宮本明子 S49家被)



若草定例会より

例年どおり支部総会の後、別室で定例会が開かれました。

運営委員は、尼崎の2人と芦屋の3人が新旧交替し、西宮の3人が残り、計6人です。

まず若草の歴史が再確認されました。若い人達が話し合える場として、また佐保会の活性化の一端として会が始まりました。そして親睦食事会、手仕事、バザー、コンサートと広がって来たのです。今年は、第3回若草コンサートが開かれます。

ついで、これ等の活動で残った収益金の用途について意見が出されました。母校の国際交流基金に協力できないか、留学生を兵庫県内に案内し交流を深めては等々。活動については、子連れでも参加しやすい地域ウォーキングの希望も出ました。

定例会に出られなかった会員の皆様も、いろいろのご意見をお寄せください。

若草新年会へのお誘い

と き	平成12年1月22日(土) 正午～午後2時30分 午前11時30分受付
と ころ	ホテル竹園芦屋本店3F レストラン「きく」 (0797-31-2341内線377) J R 芦屋駅前北口正面
会 費	6000円 (申込は1月7日迄に運営委員へ)

『睦会だより』

「睦会」を

ふり返って

久野禮子

(S30理物)

平成十年度の睦会は、私たちが当番だと総会で聞きまして、これは少々荷が重すぎるのではないかと心配でした。

幸い、国文学科の東卓子さんが、佐保会の地区リーダーをしてもらって、睦会の事情にも通じていらっしやるので心丈夫でした。

また、私が過去二年間、公立学校共済・六甲荘の副支配人を勤めていたことや東さんの義弟にあたる方が総務課長をされていることもあり、会場の六甲荘には、何かと便宜をはかって頂きました。

十月十一日(日)の当日は、爽やかな秋空に恵まれて、浅野晶子支部長をはじめ四十三名の方々のご参加を頂きました。

物理学科の小島敏子さんが、あでやかに「白扇」

という日本舞踊を舞って下さいまして華をそえて頂きました。

いま思うと私たちがお慕い申し上げていた郷美美枝先輩にとつては、最後の睦会でいらっしやいました。あの時のお元氣そうなお姿が浮び、もう二度とお目にかかれないうちで信じられない気持ちです。「みなもと清き佐保川の……古きをたづね新しき道にすすめや一筋に」という校歌を唱う度に、まさに、その生き方を貫いて来られた諸姉に、頭が下がります。

この度の当番でリーダー格であり、当日の司会をして下さった東さんもお体の調子がすぐれないとのこと、私が記事を書くことになりました。睦会のお世話をさせて頂いたお蔭で、国文学科の東さん、月森さん、五辻さんとも良い出合いを楽しみました。また、私たちが役目を果たすことができましたのも、周りのご協力、ご指導の賜と感謝しています。

母の味『大根めし』

大井好子(S15家)

歳月の経つのは早く、二十一世紀も目前です。時代と共に生活も変わりつつありますが、しかし生き

方の根本の精神は変えてはならないと思います。それは何でも物を大切に活用するということだと思います。この意味に於いて私が母から受けついで「大根めし」は実に合理的だと思っております。

材料は冷飯、大根、醤油です。大根は五ミリ位の輪切りの千切り(繊維を短くするため)にし鍋の底にひろげ、その上から全体に醤油をふりかけ、ほぐした冷飯をのせ、蓋をして中火にかけます。四・五分すると湯気が上って来るので、火を少し弱め、五分位そのままにして火を消し、更に五分位むらして底から混ぜます。大根の持ち味を全然逃がさず、大根に火を通す湯気で冷飯をあたたためるので、とても簡単でおいしいのです。

旧知の方は久しぶりに出逢うと殆どが「大根めし」のことを言われます。是非お試し下さい。

祖母と私

郷真由美(H7理数)

祖母から言われたことで一番忘れられないのは、「疑問点はその場で質問しなさい」という事だった。あれは私が中学生の頃だったろうか。祖母とバスに乗っていた時、

祖母はシルバーシートに座っていたがバスが混雑していた事もあり、私は離れた所で立っていた。ところが祖母は降りる停留所名を忘れてたらし、他の乗客に尋ねだした。ちなみに祖母は耳が遠いこともあり話す声は格別に大きい。暫くすると私の名前を呼び「次、降りるよ」と叫び始めた。再度「次だよ」と叫び始めているのか?と声が聞こえた。私は一大決心をして「はい、わかりました。」と叫び返した。乗客の視線が私に集まり恥ずかしい思いをしたのは言うまでもない。バスを降りた後、私は祖母を恨めしく思った。が、祖母はそんな事はお構いなしに、先程の乗客に感謝しながら、「訊くは一時の恥。訊かぬは一生の恥。」と言っていた。

祖母が亡くなって大勢の方から「偉大な先生だった」と言っていた。が、私は最近、祖母は普通の人より純粹で、ちよつと世間知らずのところもあり、だからこそ教育に専念できたのではないかと思っている。

睦会平成十一年度当番(S31年卒業)

大久保勝美文(国) 大山 明美(理・数)

山田 桂子(文・幼教) 萬代千鶴子(文・教)

加藤 澄子(文・幼教) 大西 翠(文・英)



新しい世紀への架け橋

人工化学物質の

もたらしたものの

奥村晶子 (S30理化)

二十世紀には化学上の多くの発明があった。米国デュポン社が「石炭と水と空気」とから作られるナイロンを売り出したのは一三三八年であった。ナイロンは最初の真の合成繊維であって、時間がかかり、取扱いも厄介な生きものを扱う古代からの綿・絹から大きく飛躍したものと考えられた。DDTは一八七四年に初めて合成されたが、殺虫性が認められたのは一九三九年以降で、第二次大戦中米国陸軍がイタリアで発生したチフスを抑えるのに使用した。マラリア対策にも有効であった。人畜に対する急性毒性が少く、不活性で長続きする素晴らしい塩素化合物と評価され、一九四八年、ミユラーはDDTの強力な殺虫作用の発見によりノーベル生理学賞を受賞している。また、電気の利用と火災の発生は表裏一体の関係にあったが、PCBの高い絶縁性がこれを解消した。金属を腐食せず、分解せず、気化せず、水に溶けないので、これを扱う人の健康

のためにも無害な理想的な物質として採用された。冷蔵庫・クーラーの冷媒オルトフルオロカーボン(CFC)も安全で優れた特性を持つとして四十年以上市場に出回っていた。今やオゾン層を破壊し、地球大気に深刻な影響を与えている。これら合成化学物質や技術革新は、私達の生活に測り知れない利便・快適さ・豊かさ・健康を与えてきた。

しかし、もてはやされた夢の物質は、やがて厄介物へと変貌して行く。生物に対する安全性を過信し、場所を選ばず大量に使用されてしまったつけが様々に露呈してきた。一九六二年に出版されたレイチェル・カーソン著「沈黙の春」(新潮社・青樹訳)は、殺虫剤によつて惹き起された野性生物の悲惨な被害を描き切っている。これら問題提起にも拘らず、DDT、PCBの使用は急増したという経緯がある。その結果、日本では、PCBによりカネミ油症という重い健康被害を招いた。半世紀に互る合成化学物質のいわば地球規模での壮大な実験によつて、環境と生物汚染は世界に拡がっていったことが明らかになったが、一九七〇年代前半になって、ようやく、

我国や欧米諸国で、それらの物質の生産・使用が禁止された。利用上の特徴であった物質の安定性は、裏を返せば環境中で分解し難い、消失しにくいという負の面を持つ。また、水に溶けない代りに脂肪に良く溶けるので、これは生物組織への蓄積性の高さになって現れる。地球上のあらゆる場所の水、大気、土壌、底泥、生物に侵入した合成化学物質の影響が消失するには、なお時間を要するであろう。

最近私達を不安に陥し入れているのは、従来型の汚染構造とは大きく異なる、ダイオキシン、ビスフェノールA、DDTに代表される内分泌攪乱物質(環境ホルモン)と呼ばれる物質である。シア・コルボーン等による問題の書「奪われし未来」(一九九七年、長尾訳、飛翔社)は、人工化学物質が環境ホルモンとして地球環境に与える重要性を認識させるのに貢献した。生体内でホルモンはその受容体と結合してその作用を発揮し、生体の恒常性の維持及び発生過程のコントロールをしている。環境ホルモンは、この受容体と結合して、本来のホルモンと同じ様な作用をしたり、逆にその作用を抑えたりして、ホルモン本来の働きを攪乱する。現在次々と見付かっている環境ホルモンは、エストロゲン(女性ホルモン)様化学物質が一

番多い。これらは、本来のホルモン同様、成熟個体に対してよりも、胎児期・乳幼児期・思春期にはるかに深刻な影響を及ぼす。これらで自然界で観察され動物実験で証明されている多くの生殖異常は、胎児期それも発生の初期に微量の化学物質にさらされ、それが性ホルモン様に作用したため正常な性分化過程に狂いが生じた結果惹き起されたと考えられている。人での疫学調査では、病気と化学物質との因果関係を立証した研究は少ないが、その影響を疑わせる事実も多く存在する。反論もあり結論は出ていない状況だが、妊娠している人、乳幼児は特に気を付けて疑わしいものを避けるべきであろう。

今、特に深刻な社会問題になっているダイオキシンの危険性が注目されるようになったきっかけは、二十年前のヴェトナムの枯葉剤作戦である。被曝した人から、ベトナムドク君のような先天性奇型児が次々と生まれた。この十数年来欧米諸国で研究が進んだ結果この猛毒性(青酸カリの数十倍)有機塩素化合物の最も大きな発生源は燃焼過程で、都市ゴミ及び産業廃棄物焼却炉と考えられるようになった。野焼きや火事でも発生する。ダイオキシンの生成に関与する物質は有機物と塩素である。この塩素供給源になる有機塩素化合物は、

主に塩化ビニルなどの合成樹脂で、これは私達の生活の中に多種多様の製品として存在する。六月二十五日ダイオキシン排出量は昨年と比較し半減と発表されているが、なお諸外国に比べ数倍高い状況である。これまでの汚染は主に企業が排出源だったのであるが、ダイオキシンの場合一般家庭を含む不特定多数の発生源から放出されるので、すべてを規制しないと効果は上らない。私達には、ゴミを減らす努力が要求される。不必要な場所に必要なものがある必要はない。便利性とリスクを考え、ライフスタイルを見直して、人工化学物質を少なくする努力をしなければならぬ。同時に、日頃から環境問題、生体内におけるホルモンの働き、免疫機構などに広く関心を持ち、適切な生き方を選べる知的体力を養う必要を痛感する。今大切なことは、地球に住む一人一人が地球の環境について真剣に考えることではなからうか。

二十一世紀と高齢者

増田茅子 (S17家)

二十世紀を七十数年生きてきた私は、自らの社会的仕事の任をおえてまわりを眺めてみれば、自分も人並に高齢者となり、すぐそこ

まで二十一世紀がきていることを知る。そしてあらゆるものがスピードアップされ、それが当然のようにより要求される時代になっていることに気付く。現代の若者たちが引き付けられているのは、イメージや仮想の世界。彼等がモデルとする体験は、ビデオゲームやテレビ。そしてそれらからの強い刺激が得られない時は更に強い別の刺激を求めるといふ現実。この様な個人的欲望の解放や利己主義、金銭的価値のみが認められるとすると、やがて二十一世紀は価値観に恐ろしい破壊をもたらす、大変大きな嵐、いや台風がふきすさぶのではないかと危惧している。

それでは二十一世紀のこの台風を防ぐにはどのようにしたらよいのであろうか。我々高齢者は何をすべきであらうかと考えざるを得ない。我々高齢者はその永い人生の中のどこかで病気や死のような現実を巡りあい、人間の営み、人間が生きているとは何であるかを大なり小なり悩み、経験をしてきた。若者より体力は劣るが高齢者の価値はこのあたりにあるのではないかと考える。利己主義や金銭的欲望を捨てた自分の生活、日常のことなど、すべてを自らの職場として、自分で自分の生活を管理していく姿を若い人々に示したい。このことでやがてはその人々が人間

の生活とその価値を見直すきっかけにつながり、少しでも台風を小さく出来るのではなからうかと考える昨今である。

新しい世紀へ

教育現場からひと言

大橋節子 (S41文英)

私は二十数年高校の英語教師をしています。最近「電子辞書」を携帯する生徒がふえ、従来の辞書は教室の隅に積み上げてあるのも珍しくありません。この掌に乗る辞書は、指でちよつと押すだけで未知の英単語は日本語で表示され、漢字変換も自在。予習なしでもピピッと一押しすれば即答できます。この鮮やかな機器は生徒たちに限りない自信といきいきとした笑顔を与えています。

ところが「君がこの話の主人公の立場だったらどうする？」と質問すると今まで自信に満ちていた様子は一変します。あの電子辞書の即答は返ってきません。黙って下を向くか、促してやつとほそほその有様。自分の体験を基に堂々と意見を述べるのは至難の技です。即答を求め、プロセスを重視しなかつたつけです。英語の学習に例をとれば、読み・捜し・考え・選ぶプロセス、言いかえると「体験

してはじめて身につくこと」をもっと考えさせなければと思つていきます。

女性がつくる二十一世紀

池内ひとみ (S48理修動)

「生活って丸ごと政治です、暮らしの中から伝えたいあなたの声を議会に届けます！」と仲間の主婦達の手作り選挙で芦屋市議会に送っていたいただいた新人議員です。

新人六人のうち四人が女性。たったこれだけの女性の進出に、今までと同じようにはいかなくなるかと男性達は、期待半分脅威を感じているようです。議会の中は、確かに男社会の論理で動いています。数の横暴、弱肉強食の世界です。しかし、いま男女共同参画社会の時代です。男性達も女性の政治参加に理解を示そうとしています。この機会を利用しない手はないと思いませんか。まだ男性達がマドンナ議員のイメージを捨て切れないうちのうちに力をつけておきたいものです。

議会が終わって、いろんな集会の中で会う女性達の元気な姿に改めて驚かされました。この女性達が集団で放つパワーは、社会のしくみも変える力があります。

二十一世紀は女性の力で住みよい町をつくりたいものです。

偉大なる先輩 郷美美枝様を偲ぶ



上田様(左) 郷様(右)

郷さんと私

八木静子 (S9文)

女高師在学中は郷さんは一年以上級、然も理科、私は文科だったのだが、薙刀をしていたので、又同じ兵庫出身ということからお互に存在は知っていた。然し親しく話をする間柄になったのは卒業後佐保会兵庫支部に顔を出すようになってからだ。当時の佐保会兵庫支部は結成早々、その基礎固めの時で大正一桁卒業の先輩方が時々集っては相談を重ねておられた。「同窓会は大切にしなければならぬもの」と誰から言われたのでもないのにそう思い込んでいた私は新卒はやほやの時からどんな集りにも顔を出していた。郷さんも同じ考えだったのか、何時の機会にも出ておられ二人はいつの間にか雑用を仰せつかるようになっていた。その故か、二人が同じ年（昭和十二年、一人は三月、一人は四月）に結婚する事になった時、兵庫支部から二人一緒に帯メをお祝に頂いた。（この帯メは今も大切に置いている）佐保会の中心メンバー

には出入はあったが二人が走り使いをしていくことに変わりはない。戦争が激しくなってきたから佐保会の活動も余りなかったのか記憶が鮮明でない。戦後校舎移転等で慌しかった時、突然郷さんが神戸市立第一高女（私の勤務校）に小さいトランクを持って現れ「これ佐保会兵庫支部の全財産だから貴女預けて。そして事務局を引受けて」といつか帰られた。嘩然としたが初めての女中学校長となれば佐保会の事には関わっておれないのだろうと黙って引受けた。こうして郷さんと私の佐保会を中にした付かず離れずの関係がついこの間まで続いた。（二人三脚という程密接なものではなく、何とも奇妙な関係だった）人生親も思考方法も趣味・価値観何一つ共通するものがない二人が「佐保会」という集合体に引寄せられて続いた間柄としか言い様のない不思議な関係の六十数年を今ふり返り、千変万化の人の世の不思議としか言い得ない思いに捕えられている。

郷先生を悼む

内匠慶子 (S18保)

一、園長としての郷先生
女校長、人事主事の重責を果され、神戸市立楠幼稚園長としてお迎えしたのは、昭和四十年四月のことでした。当時、幼稚園は園児数も多く、全国的にも五才児全員就園を唱え、神戸市教育委員会の同方針にも大変よく協力されました。その効果は如実に現れ、兵庫県の就園率は全国第二位となりました。
先生は、外に向って兵庫県国公立幼稚園長会長として活躍になり、内に向って、部下を愛してよく育てて下さいました。よく喜び、よく賞めて下さる先生でした。

二、晩年の郷先生

とにかく人と会うことがお好きで、よく感謝される先生でした。五回の手術にもよく耐えられ、大震災のときもご自宅の下敷になりながら、「声が出るかどうか試して見たのよ。」

と、落着いて話される先生の冷静さに驚きました。すがやがて助けに来られたご令息様に救い出されて、九死に一生を得られました。それから益々お元気で、会合には必ずご出席になる精力絶倫な先生でした。
平成九年、全国国公立幼稚園長OB会が東京で開催された時も、お一人で行かれ、私共の心配もよそにの歩き方で日傘を杖に、ここにこと会場で着かれ、会がはじまると兵庫代表としてご立派に、よく透るお声でご挨拶されるのです。そのお声はまだ耳に残っています。……今頃先生はどこにいらっしやるのでしょうか。純粋なお心で、人々のために精一杯お働き下さった先生ですから、きっと高い高い天国から私共を見守って下さっていることでしょう。先生のご冥福を、感謝を込めてお祈り申し上げます。

貴重なお人柄

佐藤すなほ (S19家)

郷先生が去ってゆかれた。大正元年生れ、昭和八年（理）卒、米寿をお迎えの二月だった。お若いときは如何にも女高師出のキャリアタイプでいらしたのが教育界を退かれて「働く婦人の家」館長の頃からお親しさを覚え、同窓仲間集いでは母校や同窓思いの真情と信念の強い方と感じていた。が今になって一層先生の貴重なお人柄が偲ばれる。

大地震では首から下全身生き埋めとなり乍らご次男と真由美さん（孫娘）が午後三時馳けつけられた時お経を唱えていらした由。お怪我もなく、その春の佐保婦人学級の旅のスナップ、傍らの上田ユクエ先生も一年後故人となられ、共におなつかしい面影となった。

郷先生は数回手術を受けて生き抜かれた。五十二才で子宮癌を、六十九才で大腸を、七十七才で腎臓を半分と膀胱を少し、その半年後に胃を三分の二切除された。それにも拘らずあまり気にされていない様子。精神が非常にお強かったのだらう。八十三才での地震

により、ご長男家族と同居後は一人暮らしの頃より良く食事も摂られ、足のむくみもそれ、胃もほゞ元の大きさに戻りお元気に見えた。ただ足はかなり弱られたが、ご家族が外出の自重を進言されても毎日のように西神から神戸や、時として大阪、奈良まで出かけ、様々の会合や心に点る人々を訪ね笑顔で帰ってゆかれるお姿が今も目に浮かぶ。そんな時心やさしい山川は江さんや若い方々もよく支えてあげておられた。（昨年十一月頃より「もう静かに寝ていたい」と、百日ほどお世話になられたそうだ。）

私の思い出

中野久子 (S29理数)

54年春、大学卒業後直ちに神戸市立原田中学校の教師として赴任しました。ここは40学級に近いマンモス校。生徒数2000名をこえ教師数50名余り、半数以上が若い男女、しかも個性豊かな教師集団でしたが各々が生徒一人々々を見つめ、真剣に取り組む活気に満ちた学校でした。新制中学校発足間もない初しい力に満ちたこの学校の校長が、私達の大先輩、郷美美枝先生でした。戦後日本で初めて誕生した女性校長第一号、名実共に優れた女性としての誇りある大きな足跡を残されました。平均年齢27才の個性ある教師たちの情熱をいやが上にも燃え上らせ、生徒が内蔵する能力をゆさぶり点火のチャンスを得つつ静、これに対処する熱気が学校全体にあふれていました。私の教職生活のスタート当初に得難い場の用意されていたことは、どのように感謝しても足りない程でした。衷心よりご冥福を祈ります。

「芦屋の里」の

文学めぐり

【旧山邑邸・現在のヨドコウ迎賓館】 近辺

阪急芦屋川駅を下車して、芦屋川沿いの道を北へ歩くと、バスがやっと通れる開森橋に至ります。その山側は急な勾配の坂道で六甲山の方へ向います。川幅も狭くなり、芦屋ロックガーデンも間近です。

開森橋の北、切り立った崖の上に旧山邑邸は建てられています。今世紀最高の建築の巨匠といわれ、帝国ホテルを設計建築した、フランク・ロイド・ライトの設計により、大正十三年に竣工した山邑邸は現在、重要文化財に指定されていますが、芦屋を俯瞰する場所としては最も秀れているでしょう。

【開森橋のあたり】

この辺は、春は潮見桜の古木が咲き誇っていたらしく、遠くは摂津名所図絵にもその名が見えます。近代になっても雑誌「上方」などにとり上げられ、「芦屋と潮見桜」は多くの



詩人 富田碎花旧居

人に知られ愛されてきました。しかし土地開発が進み古木は絶えてしまつて、詩人富田碎花は次のように詠んでいます。

開森の 潮見桜の 名のみにて
海こそ見ゆれ 咲く花もなく

今は、芦屋川兩岸の桜の木が、国道の業平橋まで続いている、春は万葉の花の枝が川面まで届いて、みごとです。

【細雪の碑】 谷崎潤一郎「細雪」より

開森橋のすぐ東側に「細雪」と書かれた碑があります。裏面には「細雪」の中で描かれた阪神風水害（昭和十三年七月）の部分の一節がしるされています。

谷崎は松の樹の多い空気の肌触りを愛し、悠々と芦屋を描きつづけ、「細雪」をはじめ「猫と庄造と二人のをんな」「世」など数々の作品を発表しています。

【重信医院】 水道みち商店街

阪急芦屋川駅の北の東西の通りに、谷崎と一家が通つた重信医院が当時のままの姿で建っています。

【月若公園・三代の句碑】

芦屋川駅を南に下がると、すぐ川の西に、月若公園があつて高浜虚子・高浜年尾・稲畑汀子の三代の句碑が建てられています。咲きみちて こぼるる花も 無かりけり（虚子）

六甲の 端山に遊び 春隣（年尾）
目に慣れし 花の明るさ つづきをり（汀子）

すぐ近くに年尾の住んでいた家と、月若祠・業平神社もあります。

【月若】は謡曲伝世阿弥作「藤栄」の主人公で、芦屋の大地主であつた父の死後、美少年月若は、叔父藤栄のために落ちぶれていたが、巡礼の僧、実は北条時頼によって助けられるという話です。

【業平橋】

在原業平は、父阿保親王の領地であつた芦屋とは縁が深く、歌も多く残しています。世の中に たえて桜の なかりせば

春の心は のどけからまし（歌碑）
芦屋の などの塩焼 いとまなみ
黄楊の小櫛も ささず来にけり
なお阿保親王塚はJRと阪急線の間で宮川の東側にあります。

【公光橋】 業平橋の少し南

謡曲「雲林院」で業平と伊勢物語にあこがれて、夢の中で業平と二条の后を見た公光という青年の話です。

【ぬえ塚の碑】

芦屋川を下つてきますと、そこは桜ではなく松の並木になります。ぬえ塚橋があつて、そのほとり松林の中、交番所のすぐ側に碑があります。これも、伝世阿弥作の謡曲「鶴」で、芦屋川にただよつて来た妖怪、頭は猿、尾は蛇、体は狸、手足は虎という恐ろしい怪物の亡霊が、旅の僧の読経によつて成佛し、夜の海に海月と共に消え去るという話です。

【富田碎花旧居】 宮川町四番十二号
谷崎潤一郎は松子夫人と共に昭和九年三月

から十一年十月までここに住み、その後十三年に富田碎花が移り住みました。
砕けたる 花を名とした 生涯を
終わりしことに 悔いあらめやも

碎花は自分のペンネームを「砕けた花」としてこの歌によみこみ、その詩人らしい謙虚な魂を持ちつづけて昭和五十九年九十三歳で亡くなるまで、ここに住みましました。兵庫県を愛し、芦屋の精道中学をはじめ県下五十余の校歌や市町歌を作詞しました。
また「末日須」ホイットマン訳詩集「草の葉」そして「歌風土記兵庫県」など数多くの詩集を残しています。

【その他】 芦屋文学めぐりは（谷崎記念館）
【美術博物館】小出楳重のアトリエ（徳田秋声「蒼白の月」）
【遠藤周作「口笛を吹く時」】
【村上春樹「風の歌を聴け」】など、機会があればどうぞ散策して下さい。

（岩城尚子・S33文国）



各地区「もより会」の報告と予定表

北播地区から「最寄り会」の報告

村田好子 (S39家食)

五月三十日(日) 加東郡社町の兵庫県立生涯教育センターの食堂で最寄り会をもちました。十一名が集まり、若葉の庭を眺め、昼食をとりながら語らいのひとときをすごしました。今回初めて出席された方もあり、学生時代のことや近況報告など話は尽きることなく二時間が過ぎていきました。

食後は場所を県立播磨中央公園内のバラ園に移しました。丁度花ざかりで、真っ赤に咲き誇るバラの中を散策した後、木陰で一休みして、話に花を咲かせました。いつもの事ながら、先輩の方々から元気を沢山いただいで次回を楽しみにしながら、この日の会を終えました。

芦屋地区から 初め「もより会」に参加して

岸本恵子 (H10文社)

芦屋に暮らしはじめて早一年が過ぎました。会社の寮があるというところで、卒業後すぐにこちらに参りましたが、皆様との素晴らし

い出会いは思ってもみなかったことで、ただただ感謝しています。

暮らししているとは言え、毎日会社と寮との往復で、芦屋の良さなど分からず過ごしていた私にとって、今回の参加は芦屋という土地を知る絶好の機会でもありました。ヨドコウ迎賓館のテラスからの眺め、在原業平に関する言い伝え、「細雪」にまつわる谷崎秘話、富田碎花旧宅訪問等々、歴史的にも文化的にも興味深く、楽しいひと時でした。そしてそれ以上に、大先輩を目の前にしてその存在感の大きさに圧倒されている自分がい

ました(決して大げさでなく)。今もなおご活躍されているお姿に、私どもががんばらねばと励まされる思いがしました。

女性の社会進出と言われて久しくなりましたが、実際会社で働くようになって感じるのは、まだまだ男社会だということです。日々思うところも多々ありますが、その中で、しっかりとした目標を持って生きていくことが今の私にとって大事なことなのだと感じています。

平成11年度 地区リーダー

(H11. 8. 1現在)

会員数	地区名	氏名	年次	最寄り会報告	会員数	地区名	氏名	年次	最寄り会報告
74	東灘区	松尾 薫 S47理物		例年秋に開催していたが初めて春(3/30)に開催9名参加	54	加古川市	田中 洋子 S44家食		5/16高砂生涯教育センターにて会食後奇跡「石の宝殿」見学・講演 13名参加
37	灘区	小蒲 恵子 S49理物		10月中旬開催予定	29	高砂市	塩谷 迪代 S34家食		5/30 兵庫県立嬉野台生涯教育センターで会食後播磨中央公園のバラ園を散策 参加者12名
29	中央区	右田 俊子 S52理物		検討中		古木郡	杉浦 征子 S40理化		
7	兵庫区	田中加代子 S47文教			139	三木郡	村田 好子 S39家食		6/26サンガーデンホテルにて開催 参加者10名 西播地区分割はあまりメリットが無いという意見が大多数
18	長田区	赤松 和子 S52文教		秋に昼食会詳細は未定		加東市	斎藤 静子 S36家被		
49	北区	森田 絹子 S29理数		8/29新長田「高くら」にて昼食会	11	西宮市	塚本富貴子 S33家住		年に一度開催今年度は年末頃に予定
47	須磨区	岡本 悦子 S37家被		2/28明石「京」に於て開催 参加者14名		西宮市	鎌谷 直子 S39家食		
65	垂水区	竹田喜代子 S22臨数		秋に開催予定	但馬地区	米田 純子 S40理動			
45	西区	古山美智子 S40理数		昨年11/8伊丹地区と合同で開催 本年度は未定	16	三田市	大塚 温子 S63文英		集まりを持ちたい
47	尼崎市	鈴木 久子 S37家食		10月頃に開催の予定		篠山市	野口由香子 S63理数		
89	西宮市	永吉 和子 S34理化		4/10(土)迎賓館の見学と昼食会午後芦屋川沿い文学散歩	7	氷上郡	足立 瑞穂 S40家食		昨年初めて開催 参加者10名 欠席者2名
41	芦屋市	春田 君子 S26家食		10月か11月に開催の予定		淡路地区	廣内 保子 S44理植		
35	伊丹市	塚口 郁子 S35家住		11/21(日)に例年通り開催の予定 於「名月記」	12	淡路地区	由井 弥生 S42家被		
66	宝塚市	溝端 玲子 S41文地		12月第1日曜日に開催の予定					
48	川西市	川口登美子 S39家食		11月中に開催の予定					
46	川辺郡	石原 範子 S47理物							
	明石市	内匠 慶子 S18保							
		寺田 翠 S37文幼							

佐保婦人学級 へのお誘い

当学級は社会教育活動の一環として1983年に創設されました。佐保会員外にも参加者を募り年間十回以上の活動を行っています。どなたでも参加できますので是非お申し込みください。

平成11年度 第17回佐保婦人学級今後の予定

月	日	内 容	会 場	時 間	講 師	備 考
平成11	11. 17(水)	「大山崎を訪ねる」	阪急「大山崎駅」JR「山崎駅」	いずれも午前10時30分集合		紅葉の「大山崎山荘美術館」
平成12	1. 27(木)	「21世紀に向かって」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	楢原 繹氏	
	2. 17(木)	「ポプリ匂袋づくり」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	都筑久美子氏	裁縫道具
	3. 14(火)	閉 講	神戸市勤労会館	13:00~15:00		

*参加ご希望の方はいつでも受け付けますので運営委員までご連絡ください。

会費 年間 3000円 当日のみ参加の方 500円

平成11年度 佐保婦人学級 運営委員

坪根 ミキ	S16B理	東灘区	078-452-0550	山川はる江	S19保	尼崎市	06-6431-4856
大久保勝美	S31文国	北 区	078-591-2493	寺田 翠	S37文幼	明石市	078-911-5364
立花 紀子	S38理数	東灘区	078-451-0654	大橋 節子	S41文英	須磨区	078-792-1440

坪根ミキ(S16B理)長寿社会にあつて健康で生き甲斐のある生活を送る為に、佐保会員のみなならず一般の方からの参加も呼びかけ、お互いの親睦を深めながら学習を重ね、これを社会への貢献に役立てるという趣旨の下に佐保婦人学級が発足して今年十七年目になります。学習内容等は支部だよりでご覧頂いていますが、最近では急速な科学の進歩に伴って生じる諸問題にも関心を持ち、それぞれ専門の方を講師としてお招きしています。先輩の方から「雰囲気がよく、レベルが高い」というお声を、一般参加の方からは「素晴らしいお仲間に入れて頂いた。」と感謝のお言葉を頂いています。しかし、十七年の歳月には、婦人学級をこよなく愛して下さった方々とのお別れもありました。代わって新しい方のご参加もあり、皆様方の温かいご支援を得て楽しく続けさせて頂いています。

「佐保婦人学級」 十七年の思い

佐保会兵庫県支部平成10年度会計報告並びに平成11年度会計予算

収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	平成10年度決算	平成11年度予算	費 目	平成10年度決算	平成11年度予算
前年度繰越	2,083,525	1,639,785	本部会費	804,000	650,000
会 費	1,693,000	2,010,000	總會補助費	92,982	170,000
内 本部会費	804,000	650,000	通信印刷費	176,493	290,000
内 支部会費	889,000	1,360,000	交 通 費	57,060	65,000
預 金 利 息	68,648	100	名簿印刷費	430,920	230,000
本部より補助	56,000	65,000	名簿送料	175,100	5,000
寄 付	4,000	0	支部だより印刷費	200,000	200,000
合 計	3,905,173	3,714,885	睦会補助	30,000	30,000
			若草補助	30,000	30,000
			佐保婦人学級補助	30,000	30,000
			リーダー会経費	56,717	60,000
			「最寄り会」補助	-	105,000
			慶 弔 費	68,450	100,000
			事 務 費	113,666	130,000
			予 備 費	0	5,000
			小 計	2,265,388	2,100,000
			次年度繰越	1,639,785	1,614,885
			合 計	3,905,173	3,714,885

資産内訳 (H11. 3. 31現在)

定額郵便貯金	1,250,000
郵便貯金	88,199
為替貯金	225,765
現 金	75,821
計	1,639,785

(別途友愛貯金)

定額郵便貯金	1,120,000
郵便貯金	6,135
利息(税引後)	271,712
創立90周年寄付	-500,000
現 在 高	897,847

白い小花をいっぱい
つける野路菊は、
県花として親しまれている。



事務局便り

平成10年度事業報告

- 平成10年4月14日 第16回佐保婦人学級開講
- 5月31日 神戸ポートピアホテルで支部総会及び第6回「若草」定例会開催
- 8月27日 地区リーダー会
- 11月1日 第22号「支部だより」発行(西宮地区担当)
- 11月11日 「睦会」開催
- 平成11年1月9日 新年会開催
- 3月16日 第16回佐保婦人学級閉講

平成11年度事業計画

- 平成11年4月20日 第17回佐保婦人学級開講
- 5月23日 神戸ポートピアホテルで支部総会及び第7回「若草」定例会開催
- 8月26日 地区リーダー会
- 10月24日 第3回「佐保会若草コンサート」開催
- 11月1日 第23号「支部だより」発行(芦屋地区担当)
- 11月7日 「睦会」於(楽珍)
- 平成12年1月8日 新年会
- 3月14日 第17回佐保婦人学級閉講

平成11年度 支部役員

役名	氏名	卒業年	学部	住所
支部長	浅野 晶子	S 23	家	中央区
副支部長	吉江 順子	S 35	文社	宝塚市
	山崎 渺美 (若草代表)	S 39	文教	芦屋市
事務局	大橋 節子	S 41	文英	須磨区
	瀬川 順子	S 41	文英	中央区
	射延 瑞枝	S 42	家被	三木市
	藤井 勢子	S 48	家食	中央区
会計監査	内匠 慶子	S 18	保	明石市
	藤岡 利子	S 38	家被	尼崎市
本部理事	佐藤すなほ	S 19	家	尼崎市
	浅野 晶子	S 23	家	中央区
本部評議員	山川はる江	S 19	保	尼崎市
	大久保勝美	S 31	文国	北区
	吉江 順子	S 35	文社	宝塚市
	寺田 翠	S 37	文幼	明石市
佐保短大理事	八木 静子	S 9	文	須磨区
	浅野 晶子	S 23	家	中央区
大学婦人協会	鈴木 久子	S 37	家食	尼崎市

古柳昇春

東 昌子 (S 19文)

夕茜ただよふ草生を帰りゆく鹿み
なやさしきまなざしなせる
頭あげしなやかに歩みある雄鹿若
き王者の風をも見せて

燭の影に僧の一人が見しとふは幻
なれど青衣の女人

名を知らぬまま過去帳に記されて
現在によみつぐ「青衣女人」

天に舞ひ地に降りこぼれ松明の燃
えさかる火が呼ぶ古都の春

征かしめしかなしみさへも遥かに
てあしびの小径ひとり歩みぬ

落つる花 散る花 こぼるる花あ
りていづれも愛し花の終焉



SOS 編集後記

世はまさに世紀末、暗い世相の
ニュースが、交錯している昨今で
す。

23号「支部だより」の編集に当
たり、編集経験の全くない二人の
地区リーダーは、当初どれ程戸惑
い、心を痛めたことでしょうか。

けれども、編集委員の気心が通
じ合う頃からメンバーの結束と活
力も高まり、徐々に方向が定まり、
計画の流れに沿って形が整ってく
るのは夢のような喜びでした。

その間、温かいご教示を頂いた
支部役員の方々、ご快諾の上ご執
筆頂いた方々に対しては、心から
お礼申し上げます。特に、京都に
お住まいの、元奈良女子大学理学
部教授、奥村晶子氏からは、「地球
にやさしさを」と貴重なご寄稿を
賜り、紙面に華を添えて頂きました。
た。ありがとうございます。皆
さませひご精読下さい。

何度かにわたる編集の集いが芦
屋地区「もより会」のふれ合いを
深める上にも大きく役立ったこと
を地区リーダーとして私たちは肌
で感じております。

芦屋地区編集委員

- 東 昌子 月森 坤子 岩城 尚子
- 松本 節子 山崎 渺美 福井千佳子
- 岡本 郁子 光長紀美子 春田 君子